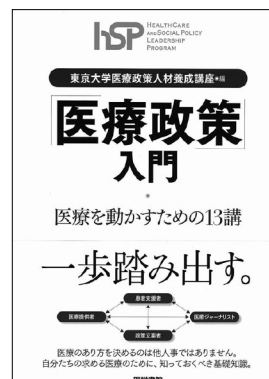


『「医療政策」入門 医療を動かすための13講』

医療政策の多様な領域を 学ぶためのガイダンスに

編：東京大学医療政策人材養成講座／定価：2,520 円(本体 2,400 円＋税 5%)

発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



医療政策には多様なステークホルダー(利害関係者)が参画し専門的な議論をしているため、現場の医療従事者や国民の立場からは、医療政策決定過程は複雑でブラックボックスのように見えます。しかし、「治し支える医療」を実現するには、国民の参画と合意形成が不可欠で、医療政策を透明で公共的に評価されるものにしていかなければなりません。

本書は、東京大学医療政策人材養成講座(HSP)の医療政策に関する講義を、基本的な知識を得られるように13章にわかりやすく編集し直したものです。医療政策の「今」を知り、これへの参画を考えるうえで必要な基礎を解説した優れた入門書になっています。

HSPは従来の大学講座の第三者的な姿勢とは一線を画し、「医療を動かす」をキーワードに、医療政策の立案を担うリーダーを育成することを目指してつくられた大変ユニークな講座です。受講者は、医療関係者、患者支援者、医療ジャーナリスト、政策立案者など医療に関係する代表的な4つのステークホルダー(利害関係者)の人たちですが、それぞれの立場を超え、医療の将来像について建設的な議論を展開しています。独自の背景をかかえている立場の異なる人たちが、互いに議論し多様な政策の選択肢を検討するためには、医療政策の前提となる共通の知識基盤が必要です。こ

のためHSPでは、さまざまな視点から医療政策の多様な領域を学ぶことができるよう講義を構成しています。本書にはこれらの講義の重要なエッセンスが凝縮され、「医療を動かす」ために必要なプロセスがわかりやすく示されています。

また、医療政策の基礎知識にとどまらず、医療従事者や国民が医療政策に働きかけるプロセスを紹介しているのも本書の優れた特徴です。「医療政策論」の章では、医療政策決定過程を概説し、医療政策はだれがだれのために決めるのかを問うています。また、「市民主体の医療」では患者会を本当の社会資源にし、医療政策に患者の声を反映させる仕組みを、さらに「地域主導の医療」の章では、地域の医療ニーズに即した地域住民と医療従事の手による医療政策の立案を紹介し、市民主体の医療政策の実現を模索するための資料を提示しています。今、政権が変わり、医療のあるべき姿が再考されています。新政権は、総医療費対GDP比を、今後、経済協力開発機構(OECD)加盟国の平均まで引き上げるなどの政策も掲げています。医療の受益、負担、資源配分に関する大きな方向付けをするためには、医療のステークホルダーのみならず国民の医療政策への参加が不可欠です。本書を医療関係者のみならず多くの方が手に取り、これからの医療の道筋を考える機会となることを期待しています。